

## 2009年6月28日長崎県大村湾で発生した地震(M4.4)について

平成 21 年 7 月 9 日開催 地震調査委員会資料  
九州大学地震火山観測研究センター

2009年6月28日09時35頃、長崎県大村湾を震央とするM4.4(Mj4.0)の地震が深さ10km付近で発生し、長崎市・大村市などで震度3を観測した。6月28日から7月3日までの地震について、手動検測で読み取り観測点数が10以上の地震57個を用いてJHD法により一次元地震波速度構造を求めた。その構造を用いてDD法により求めた震源分布と、初動極性より求めたM3.0以上の地震の発震機構解を図1に、時空間分布を図2に示す。

震源はほぼ東西に並んでいるように見えるが、2km以内の範囲に集中して分布しているためあまり定かではない。発震機構解については、本震、最大余震などは正断層型の地震であったが、6/28 10:14に発生した地震は横ずれ断層型であった。

九州大学地震火山観測研究センターではこれら一連の地震活動を詳細に調べるために震央域周辺に臨時観測点を3カ所設置した(図3)。6/28に余震域の東部に設置し、6/30に長崎空港、そして、7/1に余震域の南東部にVSATを用いたテレメータ観測点(図1のOMIQ)を設置した。今後これらのデータを用いてより詳細な解析を行う予定である。

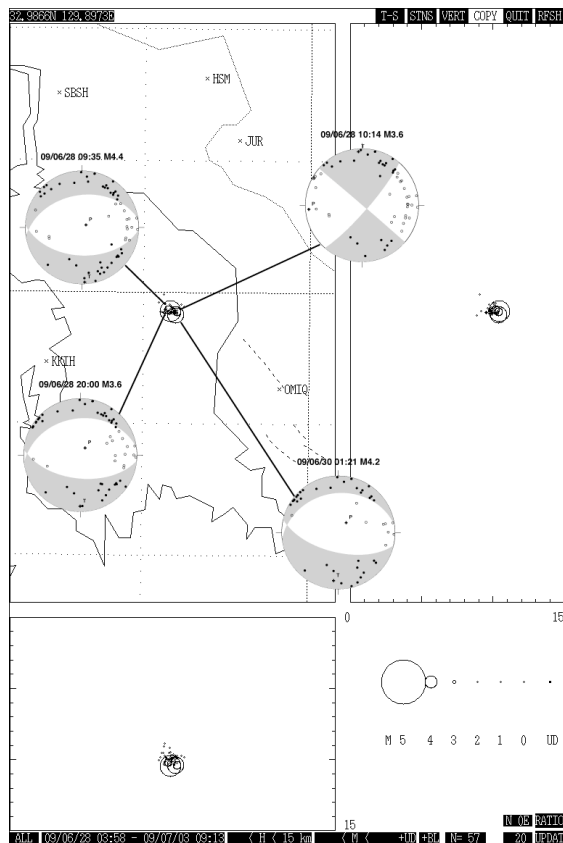


図1: DD法により求めた震源分布と初動極性より求めた発震機構解(下半球等積投影)。

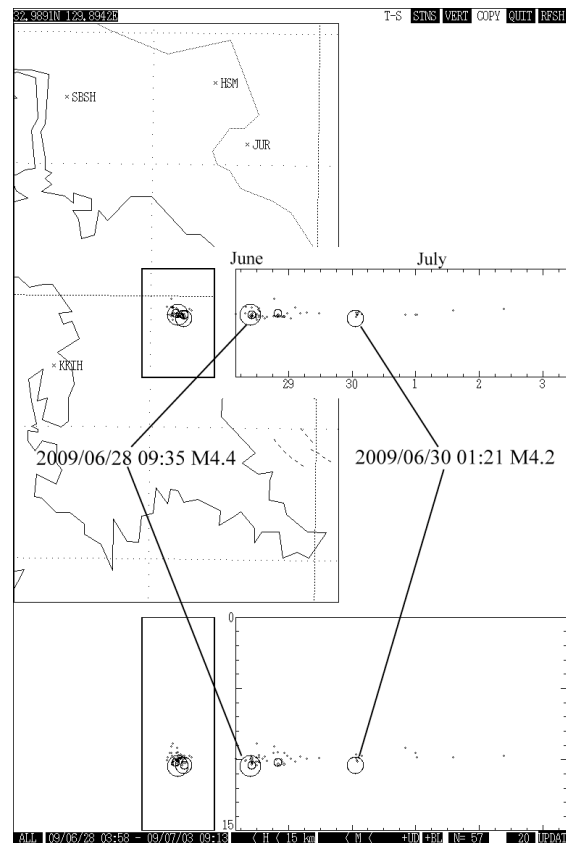


図2: 2009年6月28日~7月3日までの時空間分布図。



図3：長崎県大村湾周辺の観測点配置図。赤三角が今回設置した観測点。黒三角は九州大学のテレメータ観測点。+印は他機関の観測点。